

国立がん研究センター・グラフデータベースで公表されているデータから作成

青森県の大腸がん年齢調整死亡率は全国平均を大きく上回っており(左図)、早急な対策が必要である。

弘前大学医学部附属病院では、青森県と共同で弘前市の住民を対象に大腸がん内視鏡検診を実施している。

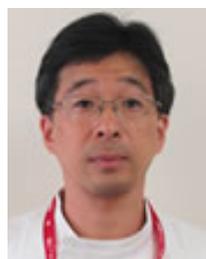
大腸がん内視鏡検診は、内視鏡医の確保が困難なことが多く、これまで地域レベルで実施されたことは稀であった。今回は弘前大学医学部附属病院が全面的に内視鏡医を提供することで、実施が可能になった。

また、対象者データをがん登録データと照合することで大腸がん内視鏡検診の効果を検証し、成果を学会や報道機関を通じて様々な方面に発信する予定である。



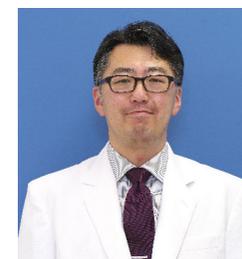
弘前大学医学部附属病院
福田眞作 病院長

大学病院と自治体が協力して、地域の課題解決に向けて取り組んでいます。また、研究的な側面を加えることで、本学のモットー・「世界に発信し、地域と共に創造する弘前大学」を実践するプロジェクトになっています。



弘前大学医学部附属病院
光学医療診療部
三上達也 准教授

今回のプロジェクトは、内視鏡医の育成を通して、地域医療の向上にも役立っています。



弘前大学医学部附属病院
臨床試験管理センター
松坂方士 准教授

データ担当です。弘前大学病院でしか実現できないプロジェクトになるように取り組んでいます。

大腸がん死亡率が高いという地域の課題に対して、大学病院が自治体と共に解決にむけて取り組んでいる。本プロジェクトの実施は人材育成による地域医療の向上にもつながっており、大学病院を中核とした社会的貢献において大きな役割を果たしている。また、大学病院の特色である研究を加えることで、地域医療から一歩先に進んだ独創的なプロジェクトとなっている。